

TR-1025

RCSS Phase1 Stage 2
Presence

RCSS Phase1 Stage 2 Presence

第 1.1 版

2010 年 4 月 16 日制定

社団法人

情報通信技術委員会

THE TELECOMMUNICATION TECHNOLOGY COMMITTEE

本書は、(社) 情報通信技術委員会が著作権を保有しています。
内容の一部又は全部を (社) 情報通信技術委員会の許諾を得ることなく複製、転載、
改変、転用及びネットワーク上での送信、配布を行うことを禁止します。

目 次

1.	スコープ	4
2.	リファレンス	4
3.	用語及び略語定義	4
4.	ネットワークアーキテクチャ	4
5.	エンティティ	5
6.	インタフェース	5
7.	シグナリングフロー	5
8.	その他	6

<参考>

1. 英文記述の適用レベル

本技術レポートは和文表記のため該当しない。

2. 国際勧告等との関連

GSMA RCS, Technical Realization Release 1, 15th December 2008 を主たる仕様として参照している。

3. 上記国際勧告等に対する追加項目等

特になし。

4. 上記国際勧告等に対する変更事項

特になし。

4-1. オプション選択項目

本文中にオプション項目であることを記載する。

4-2. ナショナルマター項目

特になし

5. 参照した国際勧告との章立て構成の相違

本技術レポートは特定文書のダウンストリームに該当しないため記載しない。

6. 改版の履歴

版数	制定日	改版内容
第 1.0 版	2010 年 4 月 16 日	初版制定
第 1.1 版	2010 年 4 月 16 日	和文として追加制定（内容は 1.0 版と同等）

7. 工業所有権

本技術レポートに関わる「工業所有権等の実施の権利に係る確認書」の提出状況は、TTC ホームページによる。

8. その他、利用者に有益な事項

本技術レポートにて参照している勧告、標準等は本文内のリファレンスにまとめられている。また、参照している勧告、標準、仕様書、技術レポートで TTC 標準、TTC 仕様書、TTC 技術レポートが制定されている場合、自動的に最新版 TTC 標準等で置き換えて参照するものとする。

本文書の記載が英語表記（1.0 版）における記載と異なる場合、日本語表記（1.0 版）を優先する。

9. 作成専門委員会

3GPP 専門委員会

本文書の記載が英語表記（1.0 版）における記載と異なる場合、日本語表記（1.1 版）を優先する。

1. スコープ

本書のスコープは、RCSS Presence NNI の観点から、Presence アーキテクチャに関連するエレメントと参照点を定義することである。アーキテクチャの定義は、OMA Presence SIMPLE Architecture , OMA-AD-Presence_SIMPLE-V1_1-20080627-A [1]に定義された Presence アーキテクチャをベースとする。本書で提示する Presence アーキテクチャは OMA アーキテクチャと同一ではあるが、RCSS Phase 1 Stage1 Presence (TTC TR-1024) [2]で定義されたユースケースに基づき、NNI に関連するエレメントと参照点のみを含めるものとされている。

2. リファレンス

[1] OMA Presence SIMPLE Architecture , OMA-AD-Presence_SIMPLE-V1_1-20080627-A

http://www.openmobilealliance.org/Technical/release_program/docs/PresenceSIMPLE/V1_1-20080627-A/OMA-AD-Presence_SIMPLE-V1_1-20080627-A.pdf

[2] RCSS Phase 1 Stage1 Specification (TTC TR-1024)

3. 用語及び略語定義

RCSS	Rich Communication System and Service Guideline group
IP	Internet Protocol
NNI	Network to Network Interface
OMA	Open Mobile Alliance
RLS	Resource List Server
SIP	Session Initiation Protocol
PS	Presence Server

4. ネットワークアーキテクチャ

以下に、RCSS Presence NNI の観点から見た OMA Presence アーキテクチャを示す。

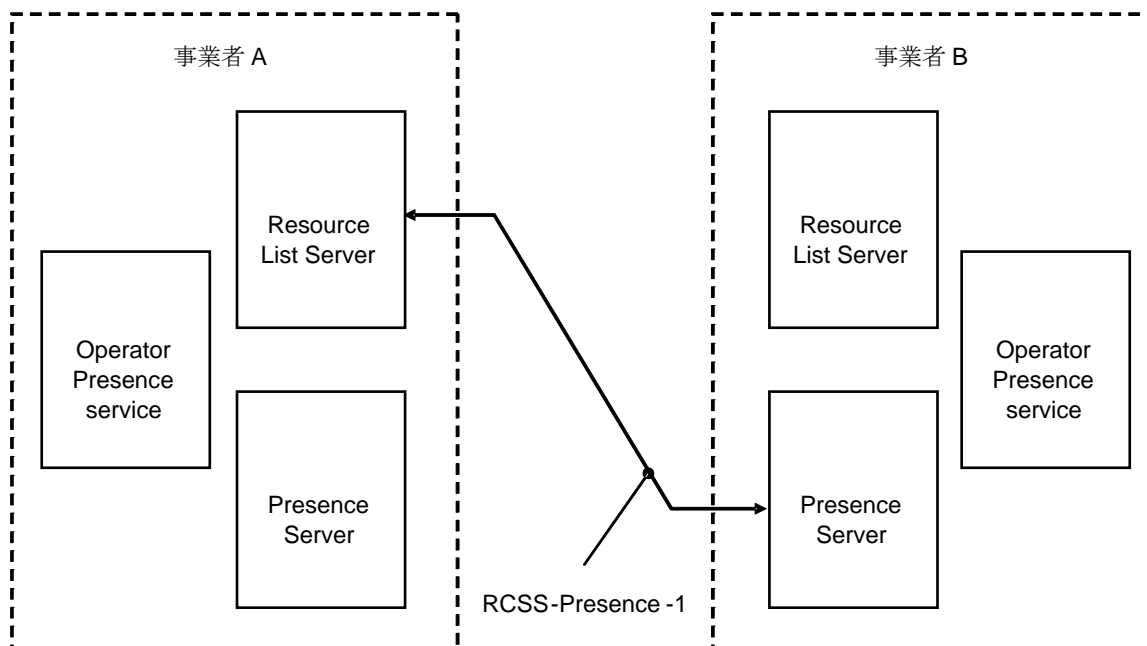


Figure 4-1/ TR-1025: Presence サーバ論理エンティティ

図中に示すエンティティと参照点は、本文書中で定義する。

5. エンティティ

RLS は RCSS-Presence-1 NNI に結合する。RLS エンティティは、OMA Presence SIMPLE Architecture , OMA-AD-Presence_SIMPLE-V1_1-20080627-A [1] の 5.3.1.5.項で定義している。

Presence Server (PS)

PS は RCSS-Presence-1 NNI に結合する。PS エンティティは、OMA Presence SIMPLE Architecture , OMA-AD-Presence_SIMPLE-V1_1-20080627-A [1]の 5.3.1.1.項で定義している。

Operator Presence service

このエンティティは、OMA Presence SIMPLE Architecture , OMA-AD-Presence_SIMPLE-V1_1-20080627-A [1]に定義された RCSS-Presence-1 インタフェースの動作に影響するすべてのエンティティのサブセットである。このエンティティの実際の配備と実装は、本書の記述範囲外である。本エンティティ自体は外部 NNI インタフェースを持たず、下記の事項に関して RCSS-Presence-1 インタフェースの動作を制御するものである。

- ・ Presence 情報の管理
- ・ Presence Resource List の管理
- ・ Presence Authorization 機能の管理

このエンティティは、定義された Presence 情報ストラクチャをサポートするものとする。データフォーマット間の変換やその他の必要なコンテンツ変換については、本書の記述範囲外である。

6. インタフェース

RCSS-Presence-1:

RCSS-Presence-1 参照点は NNI インタフェースであり、OMA Presence SIMPLE Architecture , OMA-AD-Presence_SIMPLE-V1_1-20080627-A [1]で定義された IP-1 インタフェースの参照点のサブセットである。RCSS-Presence-1参照点は、Resource List Server (RLS) と Presence Server (PS) 間の通信をサポートする。RCSS-Presence-1参照点のプロトコルは SIP であり、またトラフィックは RCSS で定義する SIP/IP NNI 経由で PS または RLS との間でルーティングされる。

RCSS-Presence-1 は、下記の目的で使用される。

- ・ RLS が一つの独立した Presentity の Presence 情報を subscribe し、notification を受領する。

本インタフェースでは、NNI の観点から定義される下記の主要なデータエレメントが交換される。

- ・ Watcher と要求された Presence Source の識別子を伴う Presence 情報要求
- ・ 要求の状況と定義された Presence エレメントを含む Presence 情報

7. シグナリングフロー

下記の図に、RCSS-Presence-1 参照点で使用される基本的なシグナリングフローを示す。

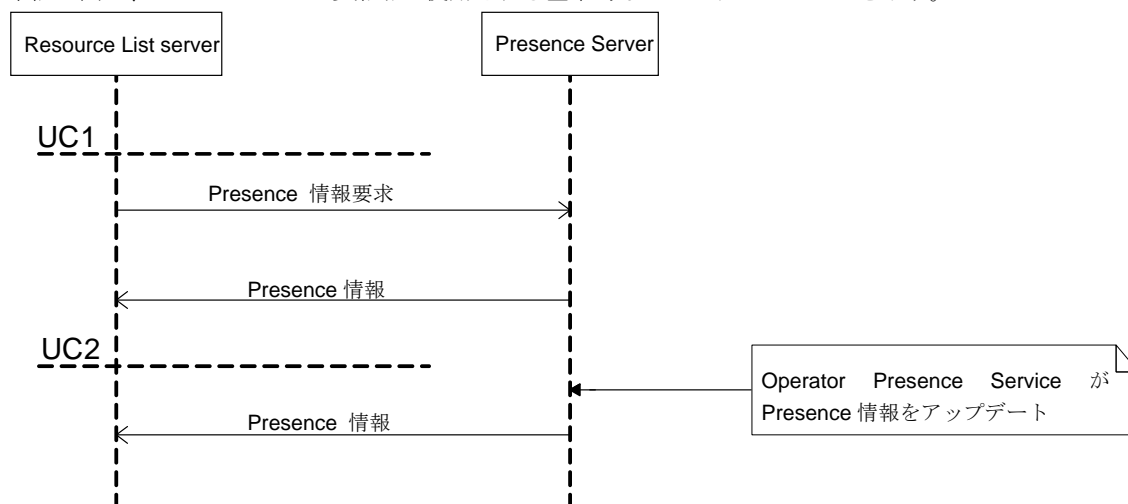


Figure 7-1/TR-1025: Presence 基本信号シーケンス

UC1:

RLS は、ユーザに対して Presence 情報を要求し、PS から応答状況、また該当する場合は要求された Presence 情報を受領する。応答状況は、Operator Presence service エンティティにより、アプリケーションの動作とシステム中の各種のリストを制御する目的で使用される。

UC2:

RLS は Presentity が Presence 情報を更新した場合、Presence 情報を受信する。

8. その他

N/A